

花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2025.AUTUMN&WINTER



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

合併号

No. **54&55**

特集1

牛木辰男学長インタビュー

6年のあゆみと未来への期待

特集2

地域から世界へ――

”脳”のち“食と健康”で未来を拓く

特集3

総合知を備え新たな価値を創出する
人材を育成する

大学院組織改革

授業紹介－教育の現場－

Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

活躍する卒業生紹介“学びの先”

教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

基金関係のお知らせ

Campus Information



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY



牛木辰男学長が2026年1月末をもって2期6年間の任期を満了し、退任する。任期中には、メジャー・マイナー制への移行やJ-PEAKSへの採択、大学院改組、さらには世界トップレベル大学院教育拠点創出事業への採択など、多くの功績を残してきた。6年間の歩みを振り返るとともに、これからの新潟大学への期待を語ってもらった。

—— 本日は6年間の学長在任期間を総括したお話をうかがいます。就任のタイミングで、新型コロナウイルス感染症の世界的流行という非常時でのスタートとなりました。このような状況で学長を務められた前例はないのではないのでしょうか。

少なくとも戦後ではないでしょう。あのレベルのパンデミックが起きたのは、直近では1910年のスペイン風邪ですから、50、100年に1回というもの。コロナ禍での大学運営は確かに大変でしたが、反面、生かされたという気持ちもあります。今では、コロナ禍でなかったらどのような6年間だったのか想像が付きません。振り返ってみるとやはり意味があったように思います。というのも、改めて大学全体の機能を見渡すことができたからです。それはもちろん「終わってみれば」ということで、真っ先に直面した問題は4月の入学式と新学期のスタートをどうするかということでした。在任期間で最も重要な決断を迫られた瞬間だったかもしれません。国内外の状況を見て

コロナ禍での 大学運営と初期対応



も大学の閉鎖は免れないと思っていましたが、オンラインで対応していくべきだということは早い段階で決まっていました。まず、役員会も教育研究評議会も、全ての会議をオンラインで行うことを決定しました。「えっ？」という顔をした方たちもいましたが、「使い方がわからない先生は若い人に聞いてください」と伝えました。「4月以降の新学期の授業も全てオンラインで行きましょう」と言った時には、強く反対する先生方もいましたが、思いのほか賛成する人たちが多かった。特に若い先生方はすぐに理解してくれました。例年より2週間ほど遅れましたが、4月中旬に新学期をスタートできたのです。学生たちのことを考えると、結果的に良かったと思っています。新潟大学は、あの年、新学期を最も早くスタートできた大学のひとつだったのではないのでしょうか。

特集

牛木辰男学長インタビュー

6年のあゆみと未来への期待

2025.AUTUMN&WINTER No.54 & 55

CONTENTS

03 | 特集 **牛木辰男学長インタビュー**
6年のあゆみと未来への期待

06 | 特集 **地域から世界へ——**
“脳といのち”“食と健康”で未来を拓く

10 | 特集 **総合知を備え新たな価値を創出する人材を育成する**
大学院組織改革

12 | **授業紹介** —教育の現場—

13 | Enjoy! **学生ライフ**

14 | **注目される研究報告**

16 | **活躍する卒業生紹介“学びの先”**

17 | **教員によるコラム“知見と生活のあいだ”**

18 | **基金関係のお知らせ**

20 | **Campus Information**

新潟大学SNS公式アカウント

@Niigata_Univ_O

@niigata_university

@niigata.univ



Cover Photo

絵を描くのが趣味という牛木学長。キャンパス内を描いた作品は大学のwebサイトなども彩ってきた。取材時には古町を走る創立75周年仕様のラッピングバスを描いた絵を感慨深く眺めていた。

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

六花

題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在、新潟市会津八一記念館館長

描くための見直しと決断の連続だったと思います。コロナ禍をきっかけに年末年始の学長挨拶も見直しました。学内の働き方改革の一環です。年末年始は誰もが一番休みたいところですから、毎年1回、年頭の挨拶だけにして、そこで今年やらなければならぬことを話すようにしました。昨年の正月に私が話したことは2つ。1つは大学院改革、もう1つはJ-PEAKSです。最初の任期4年を終えて、2期目に入った時も同じことを言っていました。

社会変化の中で、大学の課題もやるべきことも変わってきています。時代とともに必要とされる研究は変わり、新しい学問も生まれます。特に今は学問の垣根がどんどん無くなっていく時代です。「垣根を無くす」という



花壇に咲いたミニヒマワリが印象的な夏の五十嵐キャンパスの風景も牛木学長の作品

ことは重要なポイントで、そもそもそれこそが根源的な学問の大切さであるという意識が私にはあります。従来の学部の枠にとられず、複数の専門分野を横断して学べる「メジャー・マイナー制」の導入や、文理融合型の大学院教育プログラムなどの大学改革も、その点を重視して進めてきました。

——新潟大学は次のステージに向けてどのように歩んでいくべきか、先生の思いと期待をお聞かせください。

私が学長としてみなさんに伝え続けたのは「石橋は叩かないでほしい」「私の辞書に石橋を叩くという文字はありません」ということでした。散々叩いたあげく渡らないというのは問題外ですし、落ちたら命に関わるような石橋なんて世の中にそうそうありません。そういった意味で、できるだけ前向きに「やつてみよう」と言うようにしてきましたし、決断を求められた時には前に進む方を選びました。その方針をワンチームで支え、理解してくれた理事をはじめ、教職員のみなさんには感謝しています。

首都圏の大学や暮らしとは違う、新潟らしい環境があるわけ

地域・世界で輝く 大学への期待

ことは重要なポイントで、そもそもそれこそが根源的な学問の大切さであるという意識が私にはあります。従来の学部の枠にとられず、複数の専門分野を横断して学べる「メジャー・マイナー制」の導入や、文理融合型の大学院教育プログラムなどの大学改革も、その点を重視して進めてきました。

「垣根を無くす」ということは
根源的な学問の大切さ
魅力ある研究が社会連携を促す

融合型大学院への 転換と未来を 見据えた意思決定

大学院改革は私が学長になる以前から様々な経緯がある懸案だったので、任期中に決着をつけたいと思っていました。新潟大学の未来を考えると融合型の大学院しかありえない。そのためのワーキングを作り進めましたが、最初の4年をかけて出てきた結論は否定的なものでした。しかし、私にはこの答えは受けがたいものでした。同じ大学の同じ学部で学士、修士、博士へと進む伝統的な「煙突型大学院」では新潟大学の未来を描くことはできないし、そもそも現在の博士課程の充足率では10年後が見えないのです。役員のみなさんは私の考えに賛成してくれ、6年越しで漕ぎ着けたのです。

——未来を見据えた意思決定が実ったのですね。
任期中は未来の新潟大学を



ですから、学生のみなさんには伸び伸びと学び、その学びを未来に役立ててほしいと思います。そのためには、学生が新潟大学で学ぶことを誇りに思えるような場を、大学の研究者たちが作りあげることが重要です。新潟大学の未来を考える際、やはり研究力をつけることが一番重要だと思っています。魅力ある研究が学生を引きつけ、社会との連携を促すのです。そのために「新潟大学における特色ある研究とは？」と問い続けているわ

けです。新潟大学の国際的優位性と特色ある分野を「脳といのち」「食と健康」としましたが、まずはその2つの分野でイノベーションを創出する研究拠点を目指すことが必要だと思っています。国立大学の多くはその地域独自の分野を扱う知的拠点であるべきです。同時にそれらの研究は世界と繋がっていることも求められます。現代のグローバル社会では、地域のテーマは世界のテーマになりえるからです。人材育成もその点を意識し、

仕組みや制度もそこに合わせていかなければなりません。ここから先のことは、次の世代が考えるべきだと思います。つまり、私の想像力はここまです。変わらないのは大学は学生のためにあるということ。学生が楽しいと思える大学でなければならぬし、研究者が輝ける大学でなければならぬ。時代が変わっても、学生や研究者たちに夢を与えられる場所であることが新潟大学にとって大切だと思っています。

牛木辰男

第16代新潟大学学長

■ 略歴

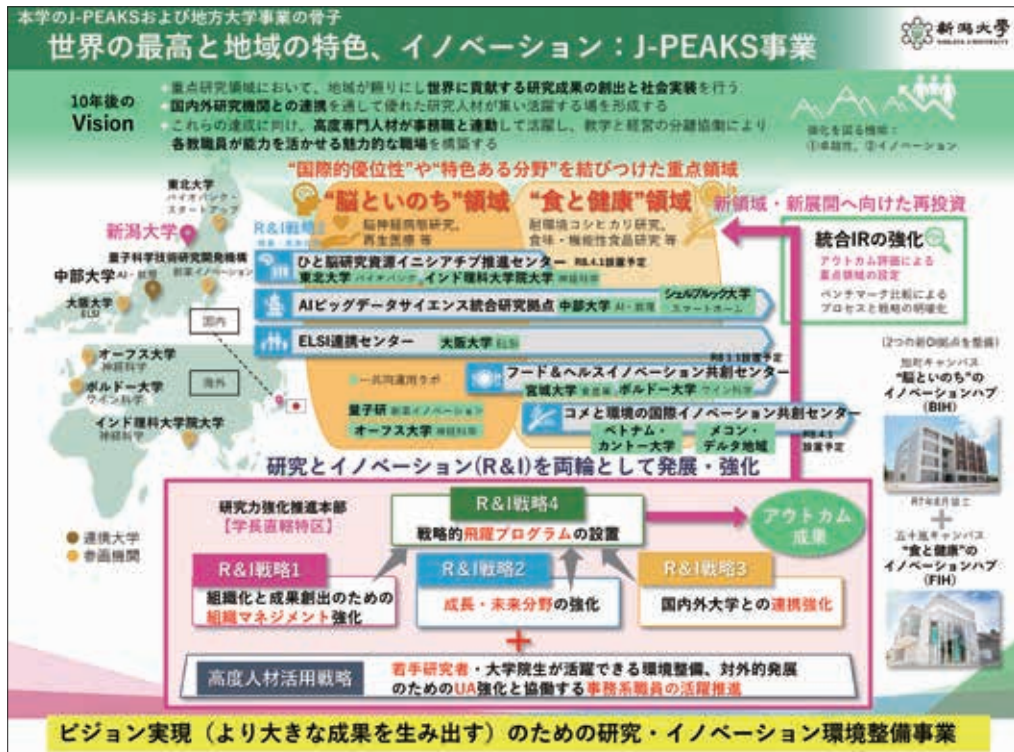
1957年	新潟県糸魚川市に生まれる
1982年	新潟大学医学部卒業
1986年	新潟大学大学院医学研究科修了
1986年 4月	岩手医科大学助手
1988年 11月	岩手医科大学講師
1990年 1月	北海道大学医学部助教授
1995年 9月	新潟大学医学部教授
2014年 2月	新潟大学医歯学系長・医学部長
2018年 2月	新潟大学理事(国際担当)・副学長
2020年 2月	新潟大学学長

■ 牛木学長在任期間中の主な出来事

2020年 2月	第16代学長就任(任期4年)
4月	経済学部を経済科学部に改組
	新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言
2021年 4月	全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)開始
2022年度	共創イノベーションプロジェクト(共創IP)開始
2023年 4月	ビッグデータアクティベーション研究センターを設置
2024年 2月	学長再任(任期2年)
6月	創立75周年
2025年 1月	地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)採択
2025年 8月	総合学術研究科の設置が認められる
9月	医歯保健学研究科の設置が認められる
9月	世界トップレベル大学院教育拠点創出事業採択

歴史があり研究力が高く評価されています。古くはツガムシ病の原因となるリケッチア（病原体）の研究、荻野久作先生の排卵と妊娠についての研究、また現在の脳研究所に至るまでの研究があり、これらの実績をふま

えて未来に発展していく研究を“脳といのち”というくくりでまとめました。また、国内における新潟の特色を説明するテーマは、やはり食や農業、健康科学でしょう。こちらは“食と健康”というくくりでまとめました。



“脳といのち”“食と健康” 歴史と実績、地域特性のある領域で 輝き続ける未来の大学を目指す

また、国内外の研究機関との相乗的な連携を通して、優れた人材が集まり活躍する場の形成を目指していく。連携大学として中部大学、参画機関として東北大学、大阪大学、量子科学技術研究開発機構、オーフス大学、インド理科大学院大学、ボルドー大学等があげられる。さらに、「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」採択により整備した「脳



川端和重 理事(総括・社会連携 担当)・副学長

「J-PEAKS事業は、日本に世界トップクラスの研究大学を創出するという構想のもとに設立されています。これまでいわずに旧帝大や学術研究懇談会(RUII)という大学群がありましたが、それだけでは不十分であるという国の政策のもと、さらに約30機関を選定し集中投資していく決定がなされました。この採択により、新潟大学は日本全体の研究・イノベーションを向上させる集団の一員として大きく飛躍していくのです」と話すのは川端和重理事・副学長。

「J-PEAKS事業は、日本に世界トップクラスの研究大学を創出するという構想のもとに設立されています。これまでいわずに旧帝大や学術研究懇談会(RUII)という大学群がありましたが、それだけでは不十分であるという国の政策のもと、さらに約30機関を選定し集中投資していく決定がなされました。この採択により、新潟大学は日本全体の研究・イノベーションを向上させる集団の一員として大きく飛躍していくのです」と話すのは川端和重理事・副学長。



「国立大学は地域の中核であり、同時に世界に伍する存在を目指すべきです。新潟大学は、規模の大きい国立総合大学で、学生の6割が県外、主に東北や北関東出身であることから、新潟を含む東日本の拠点大学としての役割も持ちます。これまでに以上のレベルで輝き続けるためには、まさに『地域中核・特色ある研究大学』という言葉でくくられるように、研究力を高めることが必要で、そのためにはJ-PEAKSの獲得は不可欠であり、命題でした」

「『脳といのち』『食と健康』2つの重点領域」J-PEAKS 採択の審査は非常に厳しく、卓越性とイノベーションの掘り起こしが求められる。新潟大学は「脳といのち」と「食と健康」というテーマを柱とした。どちらも歴史と実績、地域特性があり、大学の強みとなる領域だ。

「基礎と臨床医学、生命科学、脳科学などの医歯学系研究は、



牛木辰男 学長

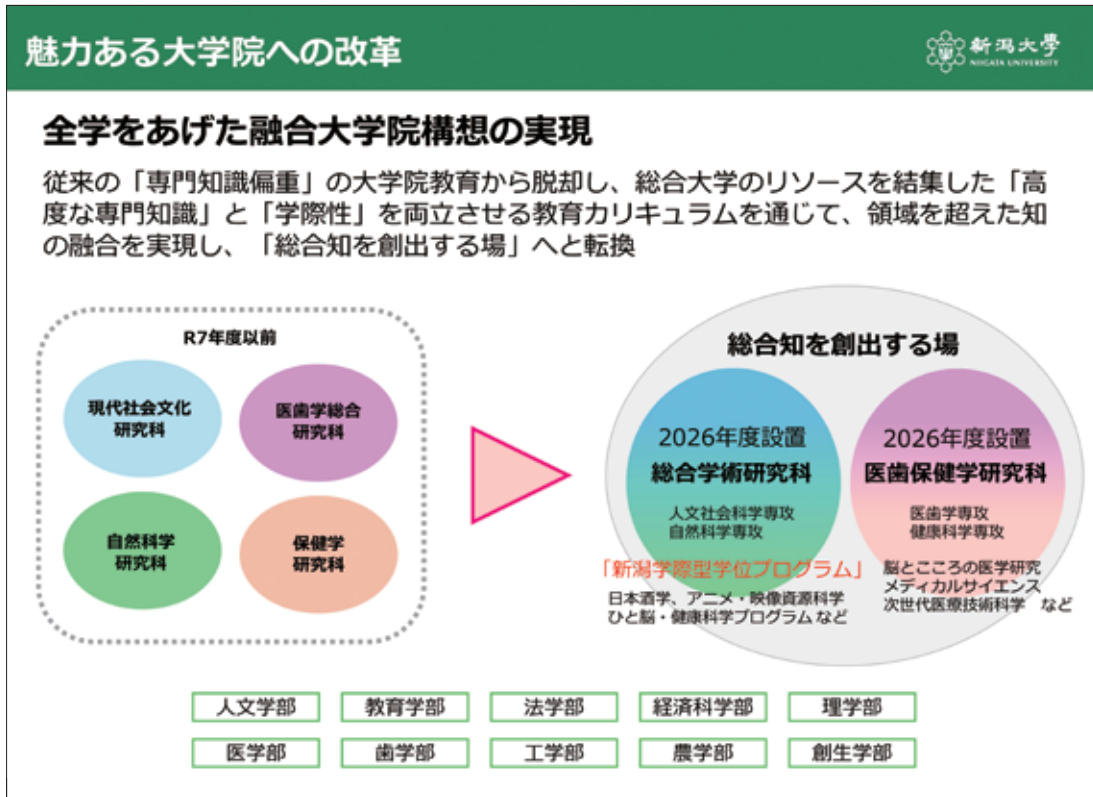
新潟大学が2024年度に採択された、文部科学省の「地域中核 特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」について特集する。同事業では、新潟大学将来ビジョン2030を発展させ、「未来社会の『脳といのち』と『食と健康』のイノベーションを創出する研究拠点」を目指した取組を行う。事業の目的や内容を紹介する。

“地域から世界へ―”脳といのち” 食と健康“で未来を拓く”

特集

総合知を備え新たな価値を創出する人材を育成する

大学院組織改革



社会課題は複雑化を増し、特定分野の専門知識のみでの対応は困難になっている。科学技術を調和的に社会実装し、新たな価値創造を高めるためには、人文社会科学と自然科学の知を融合した「総合知」の創出が必要だ。これらの背景を踏まえ、2026年4月に現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合した「総合学術研究科」、医歯学総合研究科と保健学研究科を統合した「医歯保健学研究科」を設置する。



牛木辰男 学長

大学院重点化の目的と背景

大学院改革の背景には複雑化する社会課題がある。牛木辰男学長に聞いた。

「これまでの大学院教育は、研究力を高め、研究を担う人材を育てることが目的でした。しかし、社会の複雑化と共に、大学院は高度化する多様な社会の新しい機能を担う人材育成の場として考えられるようになりました」

もう一つの要因は国内の急速な18歳人口の減少だ。大学の数や規模もコンパクトになっていくことが予想されている。

「国際社会で生き残っていくため、また世界全体の発展のためにも日本の国力を上げることは必須です。そのためには社会を変革する優秀な人材の数を増やさなければなりません。ここが、番大きくシフト

総合学術研究科の特色とプログラム

これらの背景や目的から現行の現代社会文化研究科と自然科学研究科は統合され、総合学術研究科となる。修士課程では「人文社会科学専攻」と「自然科学専攻」の2専攻になり、11の学位プログラムが設けられる。プログラ



末吉 邦 理事(研究・大学院担当)・副学長

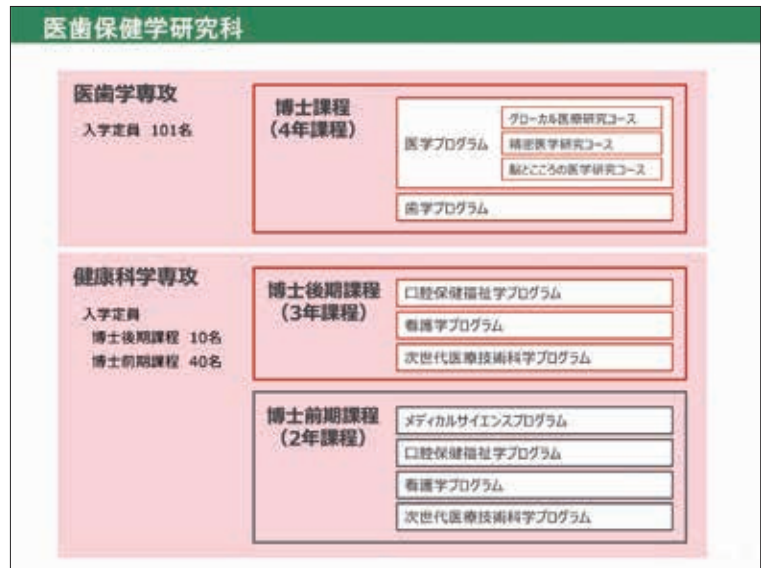
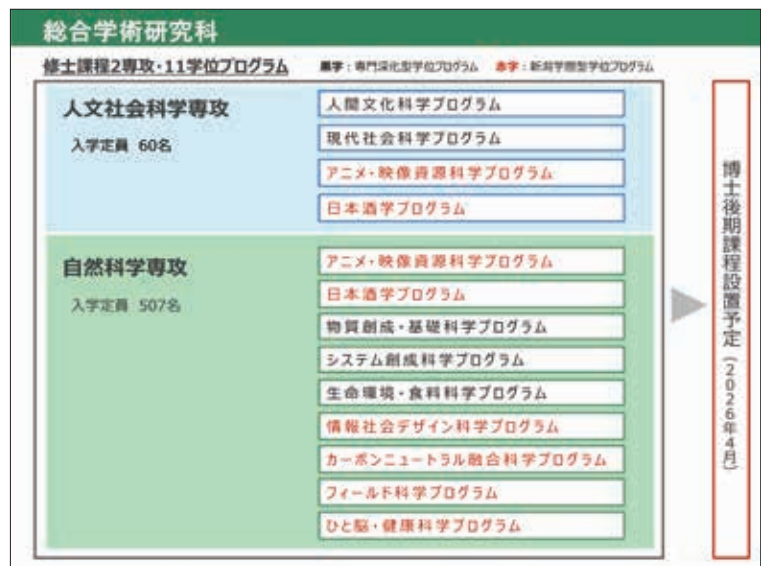
大学院に軸足を置いた「知の再編」社会を変革する高度人材育成へのシフト

ムは「専門深化型学位プログラム」と「新潟学際型学位プログラム」に分けられている。

専門深化型学位プログラムは、社会の諸問題に対応できる高度専門職業人や研究者の育成を目指す。一方の新潟学際型学位プログラムは、学問分野を横断した学びを通じて、自ら課題を発見し解決する力の育成を目指す。後者の特色について末吉邦理事(研究・大学院担当)・副学長が説明する。

「例えば、成長分野として注目されるカーボンニュートラルの世界では、太陽光パネルなどのデバイス開発や水素発生などの材料科学が基礎技術となりますが、それを発展・総合的に運用していくためにはマネジメント人材が必要です。つまり実際の社会では工学的センスと経営的センス両方の素養が求められ、複合的な学びが重要になります。また、アニメ・映像資源科学プログラムと日本酒学プログラムについては、人文社会科学専攻と自然科学専攻の両方にプログラムを設け、文系理系の学生が同じ場で一緒に学び、議論する場があるのが特徴です」

これまで文系・理系の間には研



医歯保健学研究科の特色

方法論の違いを理解し、学び合うことは非常に重要。グループでの討論や活動を通して、社会的素養を持ち専門と学際が融合した人材を送り出します」

医療の現場もまた多職種連携の時代だ。少子・高齢化の進展、医学・医療技術の発展などで急速に変化している。社会的なニーズに対応するためには、異分野を横断する視点や多職種連携のスキル、先端医療技術の倫理的な影響に対応する力も求められる。分野を横断的に学ぶ教育体制を整

高度化する社会における大学院進学意義

一連の大学院改革を達成するためには、「大学院に行くことにはどのような意味があるのか」という意識の改革が必要だと牛木辰男学長が結ぶ。

「その実現のためには学生だけではなく、社会の理解が必要です。中小企業はまだまだ博士人材の必要性を強く感じてはいないでしょう。大学院を修了した人材を採用すれば、給料を高くしなければならぬので「二の足を踏むところもある。しかし、急速に変化する社会情勢に対応するためには高度人材が絶対的に必要ですから、そこに対して啓発活動をしなければなりません。これはある意味でキャリアパス教育でもあります。大学院を修了すれば、より自分の将来が明るくなると思えるように道筋を立てること。さらに先のキャリアがあることを伝え続けることが、大学院改革において非常に重要なのです」

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉強はもちろん
部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。
このページではそんな青春の1ページをお届けします。



↑部員は選手とマネージャーを合わせて22名。9～2月のシーズン中は新潟市内のアイスアリーナで活動。
オフシーズン中は新潟大学のグラウンドでランニングや筋力トレーニングも行っている。

アイスホッケー部

初心者が多く上達の早いスポーツ
卒業生との強い絆が活動を支える

「部員の半分以上は大学から競技を始める初心者。中高には少ない部活のため、大学生になって新しいことに挑戦したい人が入部することが多いです」と部長の澁谷太一さん。試合は6人1チームで交代が自由のため、ほぼ全員が試合に出ることができる。昨年度は国公立大学が出場するインターカレッジ北信越予選で4位の成績を収めた。上位2位に入り、全国大会への出場が部としての目標だ。

「全員が勝ちたいという気持ちを持っているので、自分たちを律して精一杯、練習に取り組みます。練習した分だけ上達します。自らの成長を実感し、試合に出て活躍することにやりがいを感じています」。また、卒業生とのつながりが強いことも大きな特徴だ。「リンクの利用料は自己負担だけではなく、先輩方からの寄附によって賄わせてもらっています」。卒業生の支援が活動を支えている。

→練習メニューなどは全て自分たちで考え、また試合の反省やミーティングも学生のみで行う。部員が主体的に活動している。



初心者中心で
試合出場の機会が多く
成長を実感しやすい
スポーツです。

部長
澁谷太一さん
(工学部4年)



新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの
情報をコンパクトにまとめ、
随時お届けします！
ぜひダウンロードください。

App Store



Google Play





井筒ゆみ教授

Yumi Izutsu

Profile 博士(理学)。専門は発生生物学・免疫生物学。両生類の組織リモデリングにおける幼生組織のアポトーシスと免疫のはたらきを研究。



『動物生理学Ⅰ』

新しい生命現象の発見や
メカニズムの解明に至る背景を学ぶ

「動物生理学Ⅰ」は理学部2年次以上を対象とした選択科目。動物の生理学には、発生、代謝、免疫、内分泌(ホルモンのはたらき)など様々な領域があるが、同科目では動物の免疫学を題材に、生命現象の発見の背景やメカニズムを学び、基礎知識を習得する。自己と非自己の識別をとおり、生体がどのよう

うに生理的機能を維持しているのか、そのしくみを理解することが目標だ。担当教員の井筒ゆみ教授に聞いた。「免疫学は病原体などの外来の異物から体を守る生体防御システムとして、現象論的視点から出発し、近代の分子生物学を基盤として発展してきました。免疫応答の特性は、自分以外の

意欲ある学生が伸び伸びと勉強に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

理学部

STUDENT'S VOICE



左:白幡 渉さん(理学部2年)
右:熊田 稜さん(理学部3年)

「1年次に受けた先生の講義に興味を持ち、さらに学びたいと思いました。資料やコラム、最新の論文解説などを参照しながら興味や深まる講義をしてくださいます」(白幡)「将来、生化学・分子細胞生物学を研究したいと思い受講しました。『高校時代に生物の教科書で学んだ知識は最新の研究につながっている』という発見と驚きがあります」(熊田)

あらゆる外来性抗原に対して反応しても、自己成分に対しては無反応の状態を呈すること。『自己』と『非自己』を識別することで、生物固有のアイデンティティを確立し、正常な生理機能を維持しています」
授業は180分の講義形式。取材日のテーマは「イムノグロブリン(抗体)の起源」だった。抗体発見における重要な実験や歴史だけでなく、研究者によるコラムや最新論文も解説された。中には国際的な科学誌『ネイチャー』で3日前に発表されたばかりのものもあった。

「私の講義へのこだわりとして毎回、最新の論文を解説します。私が学生時の先生も、講義中にその年に話題になったノーベル生理学賞の受賞論文をすぐに紹介してくださいました。研究は新しいことに挑戦することが大切。新しい知見を学び、そこにある歴史的な背景や、具体的に用いられた実験の手法を理解し、得られた実験結果からの解釈を理解することが大切だと思います」
また、個人レベルで仮説を立て、実験で検証できるのが生物学の魅力だと続ける。「高校では教科書に書いてある結果が正解ですが、サイエンスのバックグラウンドには一問一答でない複雑な世界があります。教科書に『Aが正解』と書いてあっても、BやC、Dなど、複数の実験結果を検証した結果Aになったという過程を理解する力が必要です」



「私の講義へのこだわりとして毎回、最新の論文を解説します。私が学生時の先生も、講義中にその年に話題になったノーベル生理学賞の受賞論文をすぐに紹介してくださいました。研究は新しいことに挑戦することが大切。新しい知見を学び、そこにある歴史的な背景や、具体的に用いられた実験の手法を理解し、得られた実験結果からの解釈を理解することが大切だと思います」

—小児医療宿泊施設—

ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

病気と闘う子どもと、その家族が一緒にいられますように。

ハウスの運営は100%皆様のご寄附で支えられています。
温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳細はこちら



お問い合わせ：サポーター連携推進室 TEL：025-262-6010 E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学の特徴ある研究トピックを紹介 注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究
題目

日本外交史・アジア政治外交史 —東アジアにおける政治・国際関係の変容と 日本の外交、日米韓関係—

日本外交史から読み解く日韓協力の歩み

自身が10代を過ごした1990年代の韓国では、歴史教科書問題などを背景に反日感情が高まっていたと李秉哲助教は話す。

「当時の私もそのような風潮に影響

を受けていましたが、日本の大衆文化に触れ、近代史に興味を持つうちに『韓国人が抱く日本のイメージは本当なのだろうか』と疑問を感じるようになりました。次第に日本は韓国にとって非常に重要な国と考えるようになり、大学では東アジアの国際関係を学び、2010年に留学生として来日しました」

従来の日韓の外交史研究では、両国の葛藤や、仲介役を務めたアメリカの役割に焦点を当てるが多かったという。しかし、李助教は、戦後における両国の協力の歴史を重点的に研究。外務省の外交文書を中心に関連史料を調べ、検証してきた。

「日本と韓国は、経済や外交、安全保障など多岐に渡る分野で協力をしてきました。当時の日本がどのような意図や戦略を持って、韓国との友好関係を築こうとしてきたのかを史実をもとに研究しています。歴史的な観点から先人たちの対応を読み解くことで、現在まで続く外交課題の背景を知ることができます」

李助教によると、戦後の日韓協力は二国間の関係で完結するものではなく、大局的な戦略の一部だったという。

「戦後の国際情勢の中で、日本は中国・北朝鮮との複雑な関係に対応する必要があり、アメリカとの同盟関



↑李助教の著書。主に1970年代末から1980年代半ばにおける日本の東アジア外交、特に日本独自の対韓経済・外交協力について記した

係を軸に東アジア全体の安定を図ろうとしていました。韓国との協力を前向きに進めた背景には、外交戦略的な意図があったのです」

今なお、日本と韓国の間には歴史認識の相違など様々な問題がある。李助教は国籍や歴史認識に捉われず、「研究者として謙虚に」研究を進めていきたいと続ける。そして、若者世代の交流が相互理解に繋がると期待している。

「私の学生時代も韓国では日本の映画やアニメ、音楽が大人気でした。映画『鬼滅の刃』は韓国でも大ヒットしています。両国の若者たちが相手に興味を持ち、基本的価値観を共有する大切な隣の国として理解することで未来は変わります。私の研究もその一助になることを願っています」

研究
題目

酒粕アップサイクル研究 —健康と地域社会に貢献する新しい価値の創出

酒粕の新たな可能性を拓き 健康寿命延伸と地域の魅力発信に寄与する

超高齢社会といわれる日本では、骨粗しょう症患者数が増加の一途をたどっている。柿原嘉人助教は、健康に有用な食品の栄養成分の探索とその効果について研究。骨粗しょう症予防が期待される新しい機能性表示食品の開発を目指す。

「いくつかの食品素材を調べる中で、栄養価が高く昔から健康増進や美容に効果があると言われる酒粕に着目しました。酒粕に含まれている有用な成分の探索、そして骨代謝や健康維持増進にどのような効果をもたらすのかを調べています」

骨粗しょう症は、新しい骨を作る骨芽細胞と古い骨を壊す破骨細胞のバランスが加齢とともに崩れることで骨がもろくなる病気。特に閉経後の女性は、女性ホルモンの量が低下し破骨細胞の働きが強くなるという。柿原助教は卵巣を摘出したマウスに酒粕を与え、酒粕が骨芽細胞を活性化させ、破骨細胞を抑制する効果を発見。2025年9月に、酒粕と米麹の骨粗しょう症予防効果を動物実験で検証した論文を発表した。

「酒粕は様々な可能性を秘めていることが分かりました。最終的な目標であるヒト臨床試験に向けて成分解析と実証実験の両方に注力してい

ます」

また、研究と並行して、酒粕を使った食品の開発や市場展開についても検討している。目下、注目しているのは赤酢。伝統的な江戸前寿司のシャリに使われてきた調味料だ。一般的な米酢は日本酒を酢酸発酵させて作られるが、赤酢は酒粕から作られる。

「酒粕に限らず食品の需要を増やすためには機能や健康効果だけでなく、前提として『おいしいこと』が非常に重要。赤酢は発酵食品ならではの香りとうま味があり、酸味もマイルド。さらに江戸時代からアップサイクルされていた食品という物語があります。日本酒学センター設立以降、酒蔵の方々と直接話す機会も生まれ、研究のヒントや発見に繋がっています。日本酒や酒粕の新たなチカラや魅力を明らかにし発信することで、新しい付加価値を生み出し、酒造業界や地域の健康づくりに貢献できればと思っています」

→酒粕のアップサイクルにはQOLを向上し、地域を活性化させる様々な可能性がある



大学院医歯学総合研究科(歯)/
日本酒学センター
柿原嘉人 助教

Profile | 博士(医学)。専門は薬理学、分子生物学。酒粕をはじめ様々な食品の骨代謝に対する効果を研究する。



特別なあなたに 特別な1枚 「新潟大学カード」

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料



入会受付中!

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話: 025-262-7891

(受付時間 平日 10:00~15:00)

E-mail: n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

志望業界、企業で働く先輩に質問したい!

会社の中の様子について知りたい!

新潟大学キャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ! 卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください!

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています!

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

URL <https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/>

“活躍する卒業生紹介” 学びの先“

新潟大学で“真の強さ”を学び、
社会に羽ばたいた16万人を超える卒業生。
社会で活躍する卒業生をご紹介します。

むろた まさたか
株式会社Riparia 代表取締役CEO 室田雅貴さん



Profile.
群馬県前橋市出身。1995年生まれ。2018年3月、新潟大学工学部卒業。同大学院自然科学研究科在学中の2019年9月に株式会社Riparia設立。「新潟大学発ベンチャー称号認定制度」の学生起業第1号として認定を受ける。

地方に人を引き付けるコンテンツやストーリーを創造する

「新潟から世界と戦えるコンテンツを創る」というビジョンを掲げ、企業の課題を解決するパートナー事業やクリエイティブ事業、地域活性化など、多岐にわたるビジネスを展開する株式会社Riparia。学生時代に同社を設立し、代表を務めるのが室田雅貴さんだ。「プログラミングやサビース開発を学ぶ中で『多くの人に使ってもらえるようなサビースを作りたい』という思いが芽生え、起業に

『好きな人と、好きな場所で、好きに暮らす』

興味を持ったのが大学院生の頃です。同じような志を持った人が周りにたくさんいたこともあり、2019年に同期と2人でRipariaを立ち上げました」

起業当初は、首都圏の副業人材と新潟県を中心とした地方企業をつなぐ「サビース」ともいえる「をメインに、企業誘致や移住促進といった行政と連携した事業を展開。現在は、デジタルマーケティング領域における企業向けプロモーション

ンや、ウェブサービスの開発・運営に注力する。「副業マッチングサービスの運営を通じて、プロモーション部分で課題や悩みを持つ企業が多いことを実感し、広報活動全般をサポートしようと考えました。SNS運用を軸としたデジタル空間でのプロモーションをはじめ、さまざまなコンテンツを戦略段階から担うほか、保守性が高くSNSともうまく連動できるウェブサイトの制作な

新潟大学大学院修了後、一度は東京の大手企業に入社し新潟との2拠点生活をしてきたが、新潟へ戻ることを選んだ。そこには学生時代から今に至るまでに出会った人との縁が関係しており、「地方を面白い場所にしたい」「新潟に人を引き付けたい」という思いが強くなったからだという。

「もともと新潟で起業することは考えていませんでしたが、新潟大学に在籍した6年間で多くの人からサポートや刺激をもらい、新潟が好きになりました。『好きな人と、好きな場所で、好きに暮らす』という信念があり、今はこの会社で地方のベンチャー企業のロールモデルになればと考えています。これから仕事と仲間の輪を広げていき、新潟のイノベーションの最先端を作り上げていきたいです」

Information

■株式会社Riparia
公式ウェブサイト



新潟大学ネーミングライツ事業パートナー募集中

新潟大学では、施設等の有効活用及び教育研究環境を強化することにより、本学の価値を向上させることを目的としたネーミングライツ事業の実施にご賛同いただける事業者等を募集しています。

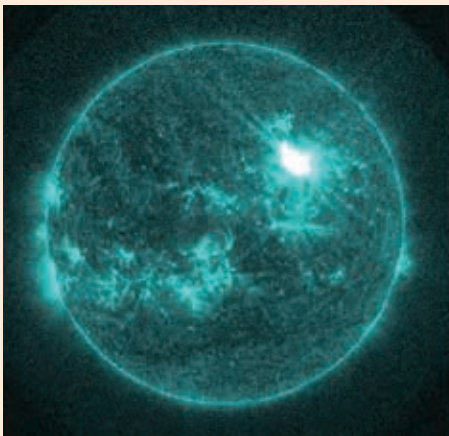
詳細はこちら



お問い合わせ：サポーター連携推進室 TEL：025-262-6010 E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

COLUMN ◆新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

第36回●教育学部「遠いけど身近な太陽フレア」



2025年11月11日に発生した太陽フレアの観測例(© NASA/SDO)。太陽からの紫外線(波長131Å)を撮影している。右上の一際明るい部分でフレアが発生している。

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第36回は教育学部です。

み

なさんは太陽フレアという言葉

を聞いたことはあるでしょうか？ 太陽で発生する爆発現象のことです。太陽フレアは、時期によってはその頻度で起きているのですが、私が学生だった十数年前は一般に報道されることはほとんどありませんでした。最近ではテレビ番組で紹介されたり、大きなフレアが起こった際はネットニュースになったりします。では、太陽フレアは私たちの生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか？

太陽は非常に高温なので、常にX線や紫外線、高エネルギーの荷電粒子(電気を帯びた粒子)など、人体に有害な放射線を出しています。太陽フレアが発生すると、X線や紫外線の強度が一時的に数百倍程度に跳ね上がり、大量の荷電粒子が放出され、地球に飛来することがあります。し

かしご安心ください。X線や紫外線の大部分は地球の上層大気に吸収されますので、地上に届くことはほとんどありません。また、荷電粒子は、日本のような中緯度地域では、地球の磁場(地磁気)に阻まれて入って来れません。そのため、地上にいる私たちが直接の健康被害を受けることはまずありません。

一方で、北極圏や南極圏などの高緯度地域では、磁力線が地表まで下りてきていますので、高エネルギー粒子が大気中まで入り込むことがあります。これがオーロラです。オーロラが発生するには、太陽と地球の磁場の向きや、粒子の持つエネルギーなどが複雑に関係します。そのため、太陽フレアが起きたからといって必ずオーロラが見られるわけではありません。自分の目でオーロラを目撃できたとしたら、それはやはり特別な体験と言えるでしょう。

さて、太陽フレアの影響は地上では限定的ですが、地球の上空や宇宙空間では無視できません。2003年には、現代的な精密観測が始まって以来最大規模の太陽フレアが発生しましたが、日本の「みどり2号」をはじめ、各国の人工衛星に故障や一時的な不調が生じました。2022年に

も、太陽フレアの影響で、SPACEXのSTARLINK衛星が40機失われました。また、巨大フレアに伴う通信障害やGPS機器の誤作動なども報告されており、北極圏を通る航空機が安全のために航路を変更することもあります。2025年11月に大規模フレアが発生した際には、大手航空機メーカーの一部機体に搭載された飛行制御コンピュータで誤作動の可能性が報告され、ハードウェアやソフトウェアの交換・改修が必要になりました。この影響で、世界的に航空便の遅延や欠航が発生しました。日常生活で太陽フレアを肌で感じることはないと思いますが、テクノロジーに依存する現代においては、実は単なる遠い宇宙の現象ではなく、つてきています。社会が便利になるにつれ、宇宙現象の予測はますます重要になるでしょう。

金子岳史
教育学部／
大学院自然科学研究科講師



博士(理学)。専門分野は天文学、太陽物理学。中学校技術科教員養成に携わりつつ、スーパーコンピュータを用いた太陽フレアの数値モデリング研究を行っている。

詳細はこちら



創立 75 周年記念募金

次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、
社会に貢献する 新潟大学

卒業生の皆様をはじめ、多くの皆様のご理解とご支援を
賜りますようお願い申し上げます。



お問い合わせ

創立 75 周年記念事業準備室 TEL：025-262-5626 E-mail：niigata_univ.75th@adm.niigata-u.ac.jp

■学生たちの挑戦と成長を支える力に

課外活動応援基金を設立しました

本学では、体育系・文化系を含め、約130の公認団体が活動しており、学生たちはそれぞれの興味や関心に基づいて、主体的に課外活動に取り組んでいます。これらの活動は、大学生生活をより豊かにするだけでなく、企画力や協調性、社会性など、将来に活かせる力を育む貴重な機会となっています。

しかしながら、近年の物価上昇や光熱費の高騰などにより、活動支援に必要な経費や施設の維持・修繕費の確保が難しくなっています。

そこで本学では、学生の課外活動を継続的に支援するため、「課外活動応援基金」を設立いたしました。

卒業生の皆様、地域の皆様をはじめとする多くの方々からの温かいご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

皆様のご寄附が、学生たちの挑戦と成長を支える力になります。どうぞよろしく願いいたします。



■新潟大学Weekを開催

古町ルフル特別企画で基金ブースを出展しました

本学では、新潟大学Weekの特別企画として、10月26日に「開講!新潟大学@古町ルフル」を開催しました。

この企画は、新潟大学の学びや取り組みを誰でも体感していただくことで地域の皆様により身近に感じていただくことを目的に実施いたしました。

サポーター連携推進室では「遺贈・相続財産の寄附」をテーマにお昼休みの時間で特別講座を開催しました。提携している三井住友信託銀行新潟支店の講師をお招きし、未来の教育・研究を支える社会貢献のかたちについてご講演いただきました。



卒業生の皆様へ

こんなカードがほしかった
新潟大学カード

はじめてみませんか。
新潟大学カードからひろがる未来

ETCカードも無料で発行



国内・海外旅行傷害保険 (最高3,000万円)
ショッピング保険 (年間補償限度額200万円)

空港ラウンジサービス



グローバルポイントは、提携先のポイントに移行できます。Pontaポイント、楽天ポイント、nanacoポイント、dポイントなど。

新潟大学カードご利用でおトクがたくさん

新潟大学カードご利用による収益金は、新潟大学と学生の支援に充てられます。

入会お問合せ・入会申込書請求先
新潟大学全学同窓会

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
E-Mail: n-doso@adm.niigata-u.ac.jp
※新潟大学カード入会申込書のご請求はメールでどうぞ。

https://www.niigata-u-dousou.jp/
TEL:025-262-7891 FAX:025-262-7892
10:00～15:00 (土・日・祝日を除く)

会員募集中!


2501-34031

－学生の輝く未来を共に創る－ 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的

経済的理由により修学が困難な学生及び障がいのある学生に対して、修学支援事業を行います。
「輝け未来!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」の支援により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿

(R7.6～R7.10寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉石田 武裕 金子 峰 齋藤 龍也 田子 悟史 藤田 隆 匿名希望6名 〳団体〵株式会社文善

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的

学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。
「未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えたフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿

(R7.6～R7.10寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉石田 武裕 齋藤 龍也 中山 真弓 匿名希望3名

新潟大学基金

■目的

新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿

(R7.6～R7.10寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉青代 桂子 新川 恒夫 安藤 勝利 石川 秀美 石田 武裕 石塚 卓 井手 協太郎 大浦 直満 大西 昌之
大山 俊之 小黒 夏子 生越 章 梶原 謙一 金子 淳一 金子 峰 北見 敦史 北見 麻衣 豊田 勝祐
黒澤 昌基 小杉 可奈子 後藤 真紀子 坂口 愛実 坂口 ユカリ 佐京 健治 佐藤 純一 佐藤 壽則 佐藤 正道
澤端 喜明 信田 庸二 清水 まゆみ 白井 哲也 住田 孝二 住吉 雅弘 高橋 起世美 滝澤 昭義 滝澤 哲也
武田 茂典 竹田 泰広 土田 克則 寺田 剛 堂前 洋一郎 徳江 郁雄 外山 久泰 内藤 由美 長尾 賢治
中谷 尚登 中村 一郎 中村 敬一 野口 公聖 長谷川 直美 濱田 一成 林 正栄 日比 登史男 廣田 巨樹
松崎 慎一 松村 博雄 皆川 政則 村上 まゆみ 村田 雅史 森 登志男 森 勇造 矢口 健二 八島 洋子
矢部 達哉 山崎 イサ子 山崎 秀 横野 知江 横山 恒 横山 昌子 吉澤 初記 吉田 滋 匿名希望76名

〳団体〵あがの市民病院売店 株式会社有沢製作所 株式会社ウィザップ 株式会社エヌ・エム・アイ 株式会社川崎商会 株式会社熊谷組 株式会社コーシン
サントリービバレッジソリューション株式会社 JA新潟厚生連柏崎総合医療センター売店 JA新潟厚生連けいなん総合病院 JA新潟厚生連上越総合病院
JA新潟厚生連新潟医療センター Japan Trinity Creation 株式会社 胎内電建工業株式会社 手を繋ごう 医療と福祉と地域の輪
新潟医療生活協同組合木戸病院 新潟県福祉保健部健康づくり支援課成人保健係 新潟県立新潟高等学校 新潟大学生生活協同組合
株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟 株式会社よしや 株式会社和光ベンディング 匿名希望11団体

クラウドファンディング

■目的

インターネットを通して、本学が設定した具体的なテーマやプロジェクトに共感した方や応援したい方から資金を募り、各プロジェクト事業を推進していきます。

■寄附者名簿

(R7.6～R7.10寄附入金分)※(50音順 敬称略)

プロジェクト名:長生きを切り拓く 口腔ケアロボットの“未来”につなげる臨床研究を!／プロジェクト実行責任者:野杔 由一郎

〈個人〉栗飯原 靖司 赤羽 輝久 浅井 知宏 安陪 晋 天部 由香里 家崎 勝生 磯田 竜太郎 伊藤 祥作 伊藤 宗倫
井上 亮 植田 英樹 上野 洋子 鵜飼 伸 宇佐美 祐一 宇都宮 雅敬 上羽 智貴 栄村 勲 大倉 一夫
大墨 竜也 太田 英史 大平 匡徹 大洞 貢平 緒方 維教 岡田 寿夫 岡部 智美 岡見 由美子 小國 一美
小野 喜樹 笠原 信治 梶川 正文 加地 亮詞 片岡 健哉 片岡 宏介 勝本 哲史 加藤 隆史
金子 和之 上岡 寛 川端 康英 川原 博雄 北谷 真 木戸 寿明 木ノ本 喜史 久保庭 雅恵 小出 紀子
郡 元治 後藤 英之 近藤 康夫 佐藤 圭一 佐藤 定雄 下島 海 柴 秀樹 須藤 享 須藤 圭一
仙波 伊知郎 高岡 晃行 高島 麻理子 高橋 直紀 高場 由紀美 高村 幸典 田口 可奈子 竹重 文雄 田中 聡子
田中 佑人 谷口 学 田沼 順一 辻村 傑 鶴田 智香 富本 昌之 友清 淳 中塚 智昭 仲野 和彦
南部 洋郎 新居 弘行 新谷 泰司 西野 博喜 西野 瑞穂 沼田 昌宏 野村 育郎 野上 有紀子 野口 展生
野村 良太 花田 信弘 花輪 智子 濱 昌代 原田 修 平藏 善大 廣瀬 齊也 松井 宏 松崎 正樹
福士 加奈実 福谷 鉄男 宮本 裕司 藤本 保志 藤原 康則 保刈 崇大 前田 英史 安永 哲也 山本 修 山本 信一
三浦 治郎 三浦 弘美 宮本 裕司 桃井 保子 森下 峻平 山田 朋美 山本 修 山本 信一
矢野 大介 八幡 祥生 山口 貴功 山下 雅美 山下 元三 山田 朋美 山本 修 山本 信一
吉岡 俊彦 米田 直道 匿名希望82名

〳団体〵医療法人社団浅井歯科医院 浅井哲也 医療法人旭ヶ丘ホリクリニック 理事長 田村康治 インターアクション株式会社 大通り歯科 渡部平馬
かわさと歯科・矯正歯科 河原歯科クリニック 医療法人社団KHI 医療法人社団佐々木歯科医院 杉原歯科クリニック T-PLANET
天真歯科矯正歯科 医療法人時和会 ないとう歯科医院 医療法人社団ナオデンタルオフィス竹村歯科 医療法人なかかわ 新潟大学歯学部同窓会
医療法人西口歯科 西中歯科医院 西中英伸 一般社団法人日本口腔顎顔面再生医療センター 代表理事 吉岡秀郎 医療法人二和会田中歯科
有限会社ハグクレイション 社長 柏井伸子 医療法人社団白群会吉岡デンタルオフィス 藤崎矯正歯科クリニック 医療法人社団藤平歯科医院 藤平敬・直美
株式会社Bulldozer 医療法人社団 平和歯科医院 阿部 修 へんとな歯科医院 湊デンタルオフィス モアイレコード 山田歯科医院 匿名希望6団体

新潟大学サポーター倶楽部


■目的

継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。
https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/

【R7.6～R7.10新規入会会員のご紹介】※(50音順 敬称略)

〳団体〵株式会社INPEXパイプライン 新潟経済同友会 マルソー株式会社

会員名簿はこちら



あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室



TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
HP https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

トピックス

■同窓の絆を深めて

「令和7年度新潟大学・全学同窓会交流会」を開催しました

本学では、全学同窓会との交流を深めることにより互いの発展に寄与することを目的とし、更なる連携をはかる機会として交流会を開催しています。
2025年10月18日にANAクラウンプラザホテル新潟にて、全学同窓会設立20周年を記念した「新潟大学・全学同窓会交流会」を開催しました。今年度は設立20周年の節目を記念し、特別企画を多数盛り込んだ内容となりました。
当日は、卒業生や関係者など多くの方々に参加し、司会を務めた新潟大学全学同窓会運営委員・教育学部同窓会の松井裕美氏の進行のもと、篠笛奏者・渡辺百枝氏による演奏で幕を開けました。渡辺氏は新潟市出身で、国内外で活躍されており、「アメージンググレース」と「新潟大学学生歌」の2曲を披露し、会場を美しい音色で包み込みました。
続いて、新潟大学全学同窓会長・教育学部同窓会長の臼杵勇人氏、新潟大学長の牛木辰男から挨拶があり、大学と同窓会のこれまでの歩みや今後の展望について語られました。



Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

「開講!新潟大学@古町ルフル」を開催しました



本学では、新潟大学 WeeK2025 の特別企画として、10月26日に「開講!新潟大学@古町ルフル」を開催しました。

この企画は、本学の学びや取組を体感していただくことで地域の皆様に本学をより身近に感じていただくことを目的に実施したものです。

ルフル広場のステージでは、日本酒学や心理学、災害・復興科学など6つのテーマで模擬講義を実施。座席でメモを取りながら聴く方や通行中の方が立ち止まって聴き入るなど、多くの方に興味を持っていただけたようです。また、ふるまちモール7では大学の様々な取組を体験できるブースを約20設け、佐渡の原生林のVR体験やうちわ作

り、健康相談などお子様から年配の方まで多くの方が楽しんでくださいました。

その他にも、新大コシヒカリのおにぎり販売や日本酒学センターの大学院生が醸造に携わった日本酒“六花の杜”、新潟市とのおいしさDXから“いもジェンヌのリキュール”の試飲も行われ、あいにくの天候ではありましたが、一日通して人の波は途絶えず、延べ3,000人以上の方々にご参加いただきました。



歯学部創立60周年記念事業を開催しました

本学歯学部は2025年に創立60周年を迎え、これを記念して11月1日、ホテルオークラ新潟にて「創立60周年記念事業」を開催しました。

まず、市民フォーラムとして、フリーアナウンサーの伊勢みずほ様よりご自身の闘病経験をもとにしたご講演をいただいた後、「健康を通じて支え合う地域社会」をテーマにパネルディスカッションを行いました。伊勢様、新潟県歯科医師会会長様、歯学部長が登壇し、地域における歯科医療の役割や、健康と笑顔を守るための取組について多角的な視点から意見が交わされました。

続いての講演会では、「歯学部の現状と展望」をテーマに4つの講演が行われ、教育・研究・臨床・国際交流の観点から、歯学部のこれまでの歩みと今後の展望を紹介しました。

最後に祝賀式典を行い、来賓の方々よりご祝辞を頂戴するとともに、歯学部長より感謝を述べました。

その他、会場内では歯学部各分野の教育・研究・診療活動を紹介するパネル展示が行われるなど、来場いただいた方に歯学部の歩みと未来への取組を知っていただく機会となりました。



中央図書館ライブラリーホールのネーミングライツ看板除幕式を行いました

本学は、オーエムネットワーク株式会社様とのネーミングライツ（施設命名権）契約を締結し、12月2日、五十嵐キャンパス中央図書館において看板除幕式を行いました。同契約に基づく新名称は「OMNライブラリーホール」です。

本学では、引き続きネーミングライツ事業を通じて施設等の有効活用及び教育研究環境を強化することにより、本学の価値向上に取り組んでまいります。



新潟大学
季刊広報誌



R I K K A 2025.
AUTUMN&WINTER No. 54&55

発行／2026(令和8)年1月
編集／新潟大学広報室
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話／025-262-7000

Home Page

<https://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail

rikka@adm.niigata-u.ac.jp



定期送付のお知らせ

季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。